



2026年5月27日

決算説明会

2026年3月期決算および新中期経営計画

有機合成薬品工業株式会社

証券コード: 4531

目次

1. **会社概要・事業紹介**
2. **2026年3月期決算の状況と23中期経営計画の総括**
3. **新中期経営計画(28中期経営計画)と成長戦略**
4. **ESGの取組みと企業価値向上**

01

会社概要・事業紹介



わが社は内外のあらゆる技術を駆使して 人の役に立ち人によるこばれるものを創る

設立 1947年11月4日

資本金 34億7千1百万円

事業所

- 本社 (東京都中央区)
- 東京研究所 (東京都板橋区)
- 常磐工場 (福島県いわき市)
- 大阪事務所 (大阪府大阪市)
- 欧州事務所 (ドイツ デュッセルドルフ)

従業員 296名

株式市場 東証スタンダード市場

※2026年3月末現在



人の役に立ち 人によるこばれるものを創る化学メーカー

化学の力と技術力を駆使して人々の生活をサポート

くらしを支える

アミノ酸



みらいを支える

化成品



いのちを支える

医薬品



アミノ酸

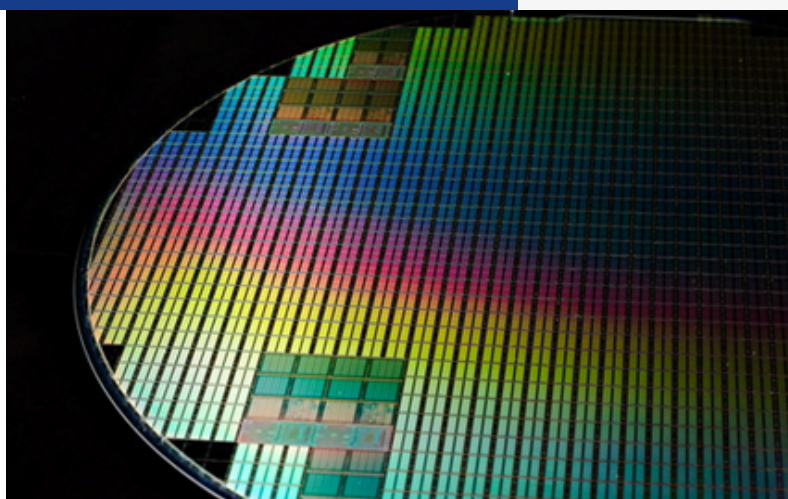


高品質なアミノ酸で人々の暮らしをサポート (グリシン、βアラニン)

医薬用途



半導体用途



サプリメント

休息・睡眠・メンタル  

G-LINE グリシン

ユーキのグリシン



800g 300g スティックタイプ ミトアクティブター グリシンドライポスター

グリズム

運動能力・フィジカル  

B-LINE ベータアラニン

ベータアラニンピュア®

スティックタイプ



300g 100g カプセル プレワークアウト

食品添加物

日持ち向上



ペットフード

 ユーキテクノサービス株式会社



技術で様々な産業をサポート (ピリジン化合物、ケイ素化合物など)

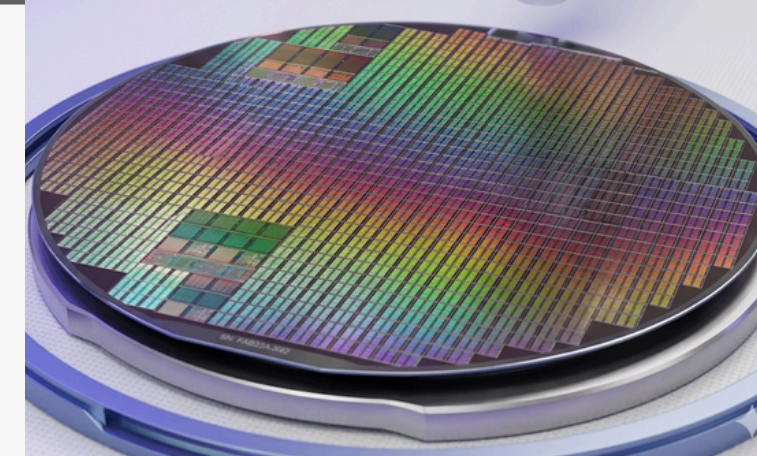
半導体用表面処理剤 (有機ケイ素化合物)

船底塗料用機能性ポリマー原料 (有機ケイ素化合物)

タイヤ用、電極用ポリマー原料 (ピリジン化合物)

低誘電ポリマー原料 (電材向け製品、PFASフリー素材)

特殊触媒原料、医薬原料、キレート剤等



医薬品原薬

自社開発原薬

- 抗ヘパリン原薬
プロタミン硫酸塩
- 抗がん剤原薬
トリフルリジン
- 抗結核原薬
イソニアジド
- インシュリン製剤原料
プロタミン硫酸塩

受託ビジネス

- CDMOビジネス
国内新薬メーカーからの受託
海外の創薬企業からの受託

ジェネリック原薬

- ニプロとの業務提携
ドネペジル塩酸塩
ソリフェナシンコハク酸塩
リナグリプチン、アピキサバンなど

医薬品中間体



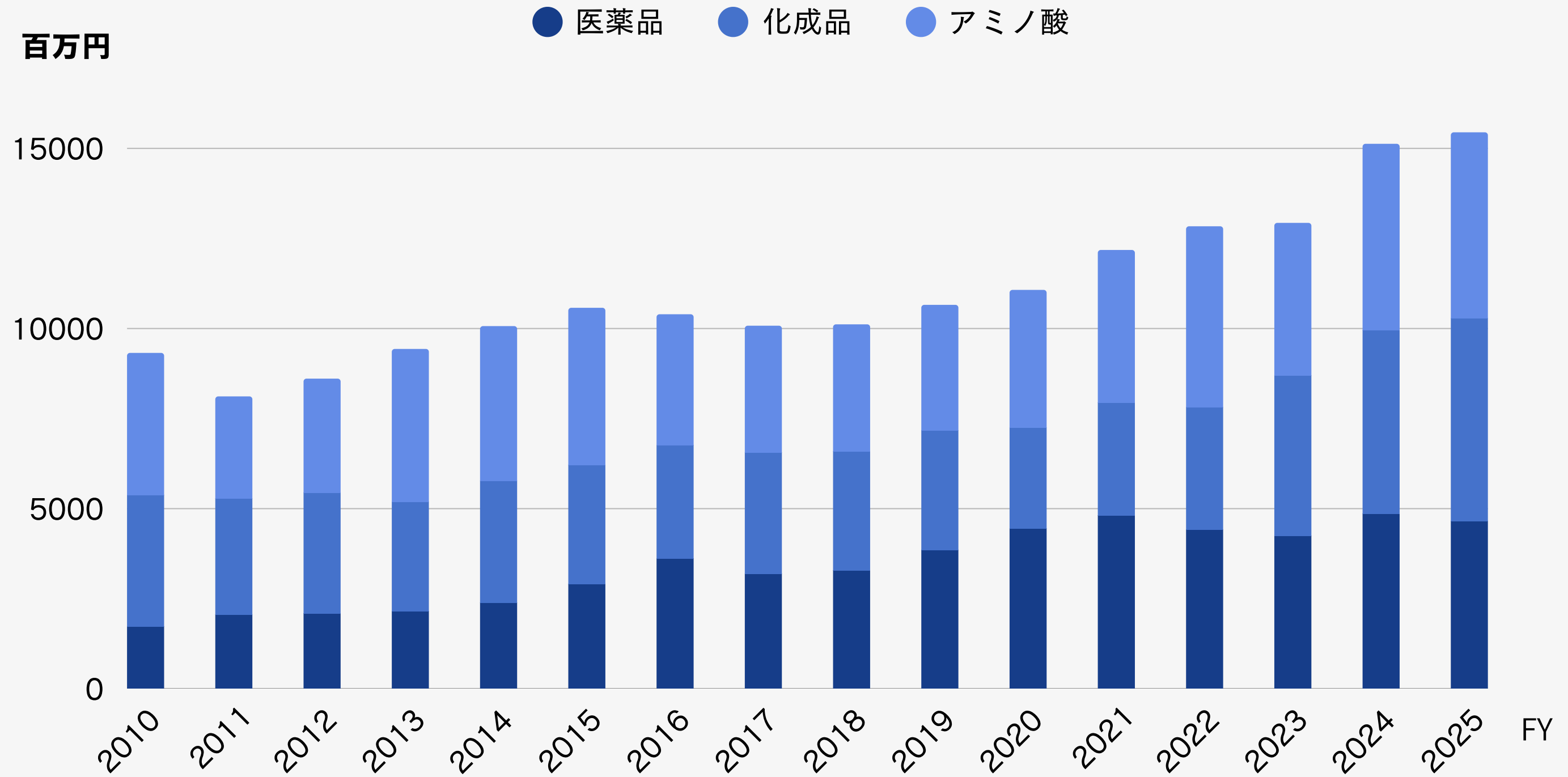
化粧品原料



02

2026年3月期決算の状況と 23中期経営計画の総括

売上高の推移



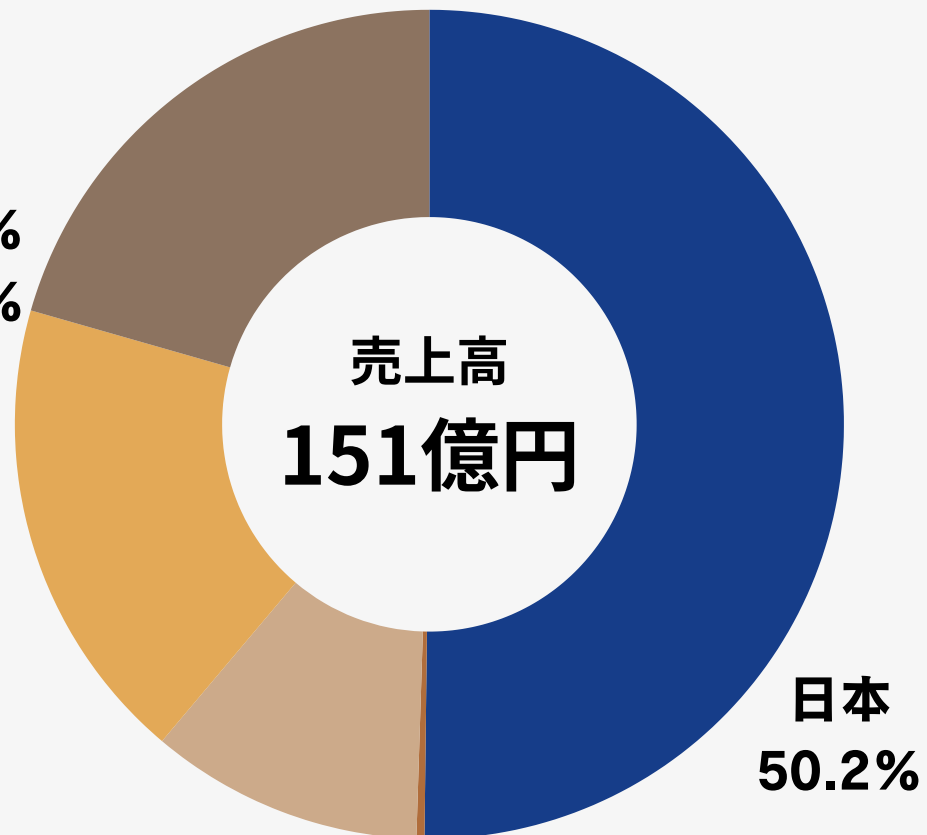
グローバル売上高構成



FY2024

海外 49.8%

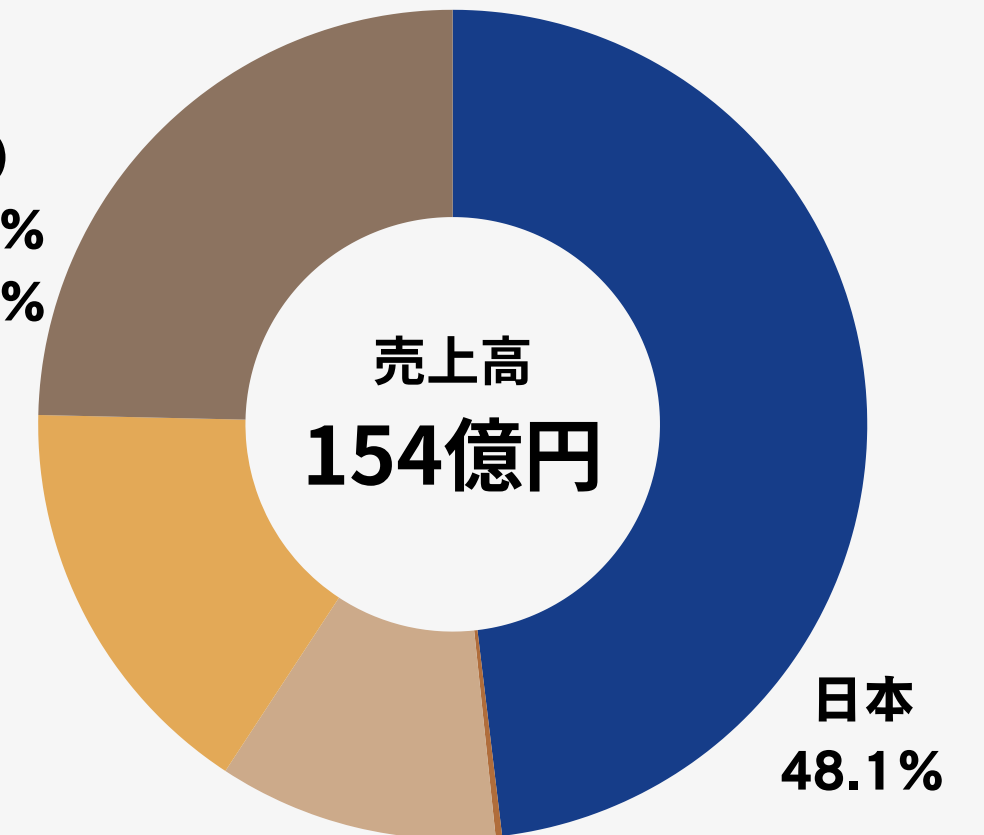
- アジア 20.6%
(うち中国 0.4%)
- ヨーロッパ 18.3%
- 北アメリカ 10.7%
- その他 0.3%



FY2025

海外 51.9%

- アジア 24.6%
(うち中国 0.2%)
- ヨーロッパ 16.1%
- 北アメリカ 10.9%
- その他 0.3%



2025年度の実績

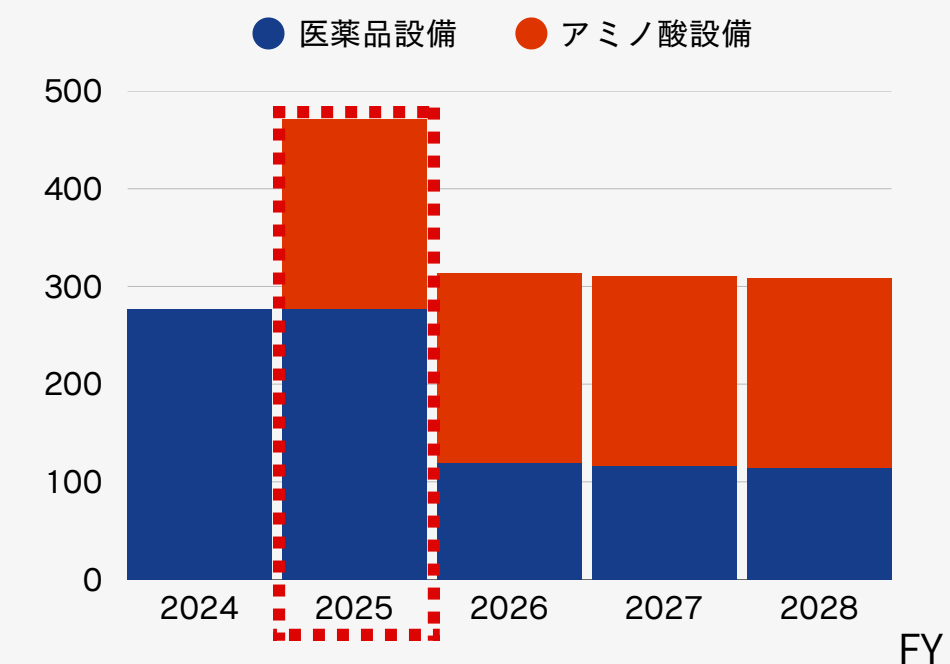


百万円

	FY2023	FY2024	FY2025	
	実績	実績	実績	増減 (対前期)
売上高	12,932	15,128	15,448	+320
アミノ酸	4,237	5,169	5,156	▲13
化成品	4,450	5,096	5,629	+533
医薬品	4,245	4,862	4,661	▲201
営業利益	1,125	1,216	383	▲833
経常利益	1,130	1,139	303	▲836
当期純利益	776	896	313	▲583
ROA	4.6%	4.5%	1.5%	▲3.0%
EBITDA	2,102	2,250	1,622	▲628
EBITDAマージン	16.3%	14.9%	10.5%	▲4.4%

減益要因①

減価償却費の一時的な負担増



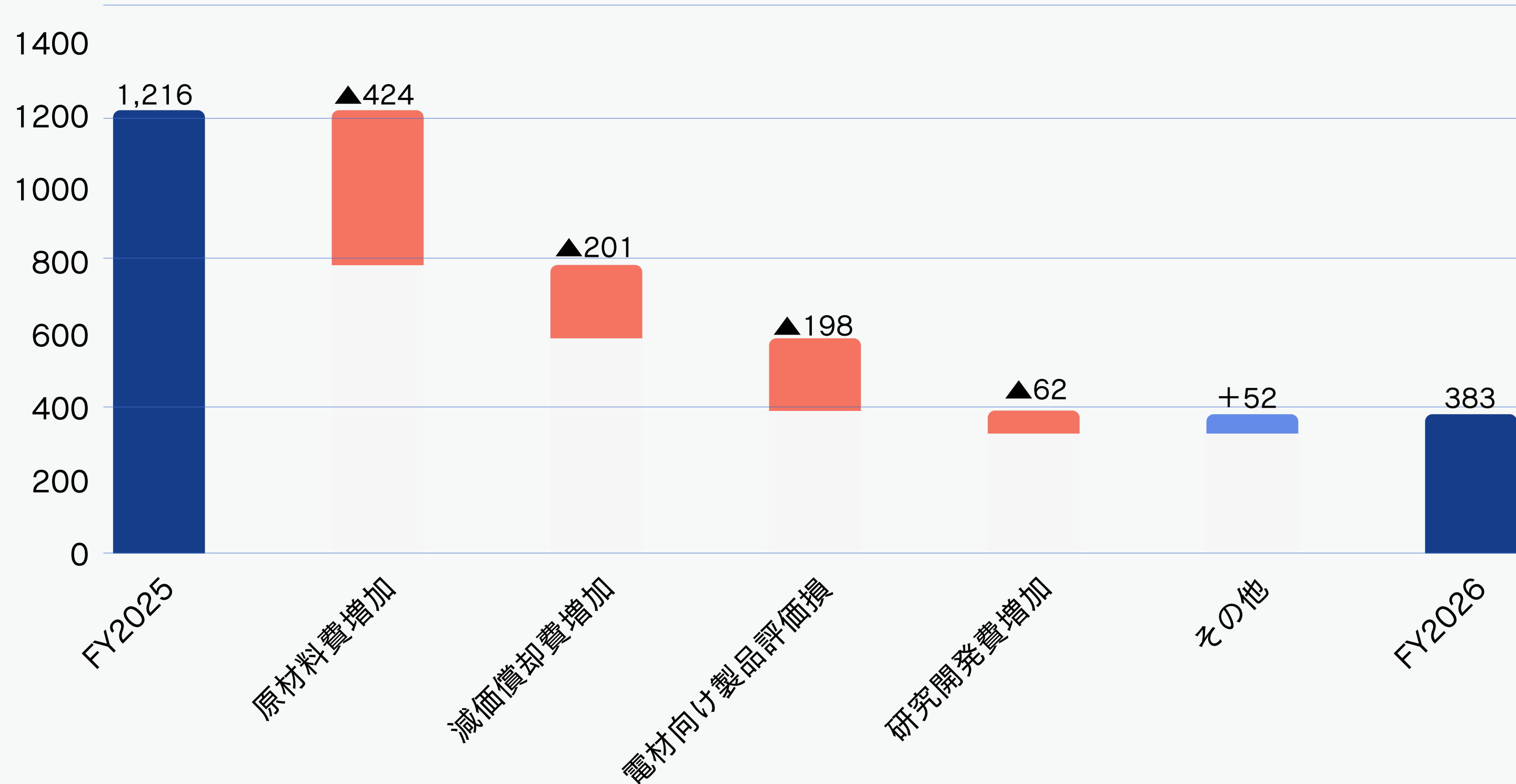
減益要因②

電材向け製品の需要が旺盛も競合参入による市場価格の下落により大幅に利益を押し下げた

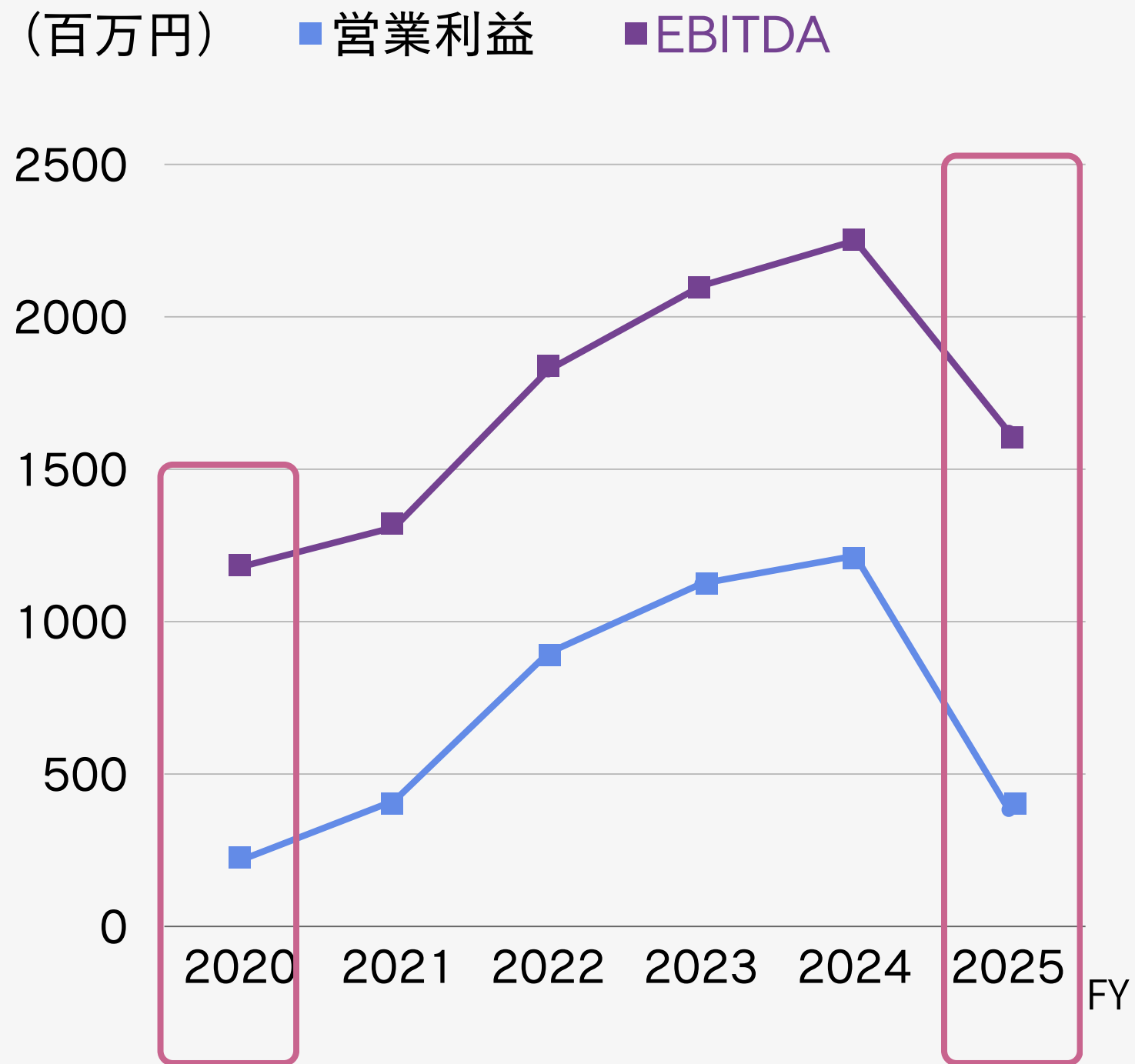
営業利益の増減分析



百万円



営業利益、EBITDAの推移



EBITDA



1,622百万円
(前年比▲628百万円)

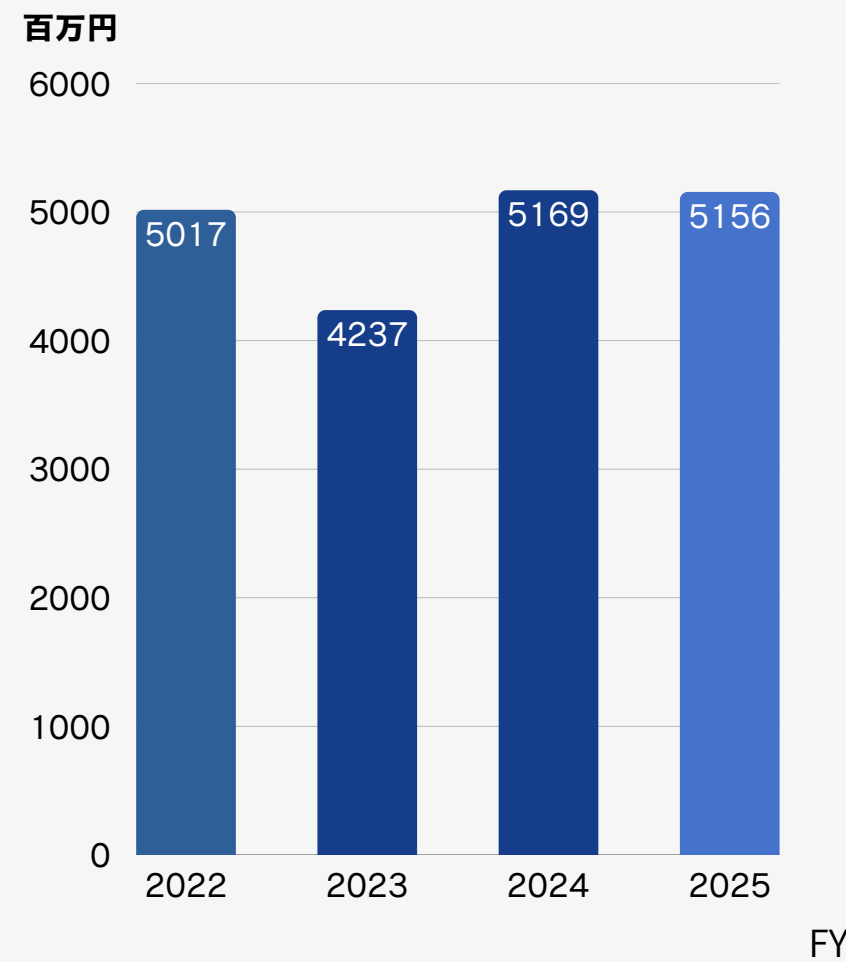
営業利益



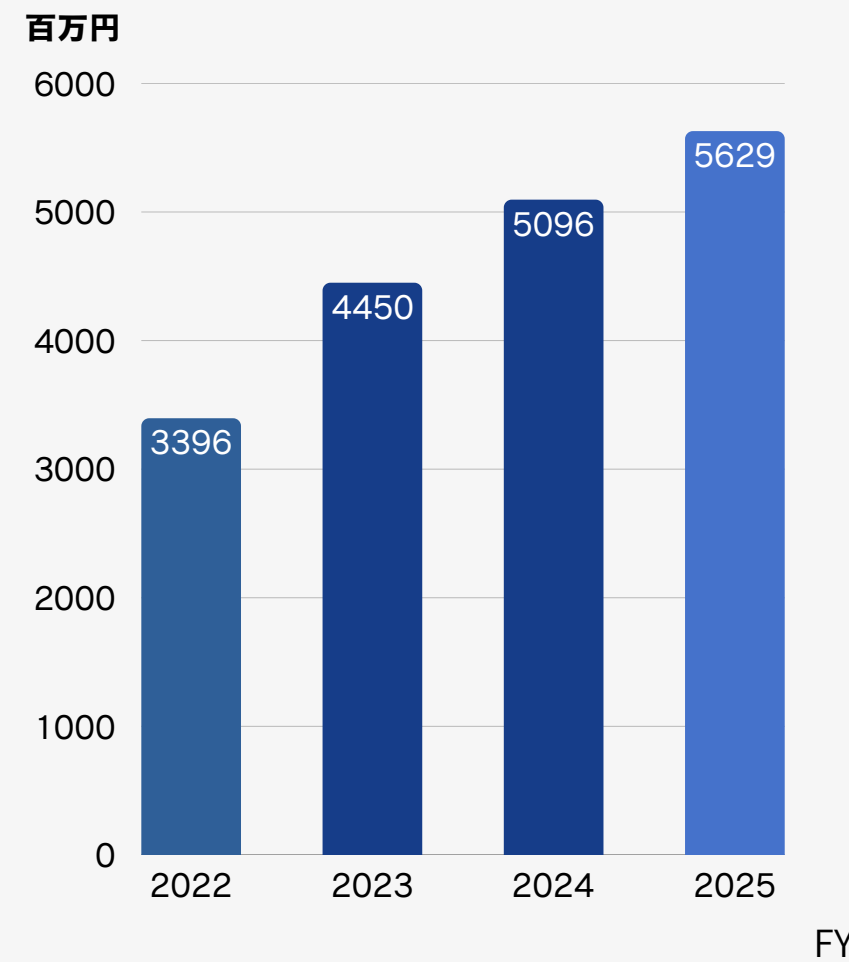
383百万円
(前年比▲833百万円)

営業利益の減少に伴い、EBITDAも減少

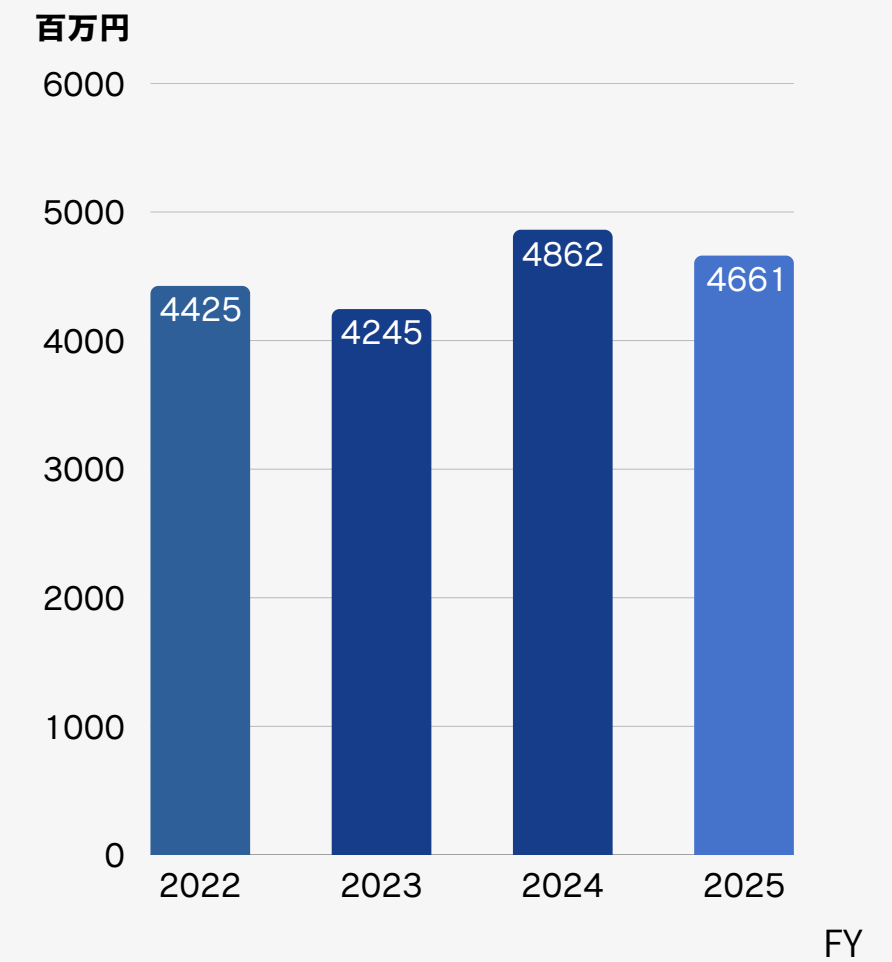
分野別売上高推移



アミノ酸



化粧品



医薬品

アミノ酸

- ▶ 海外市場向けが好調であったものの食品添加物用途は減少 (FY2026～ / 新規設備によってさらなる需要拡大に追随)

化成品

- ▶ 電材向け製品が成長時期に突入し需要が旺盛も、競合参入による市場価格の下落が利益を圧迫 (下方修正の原因) (FY2026～ / 電材向け製品のコストダウンにより利益改善)

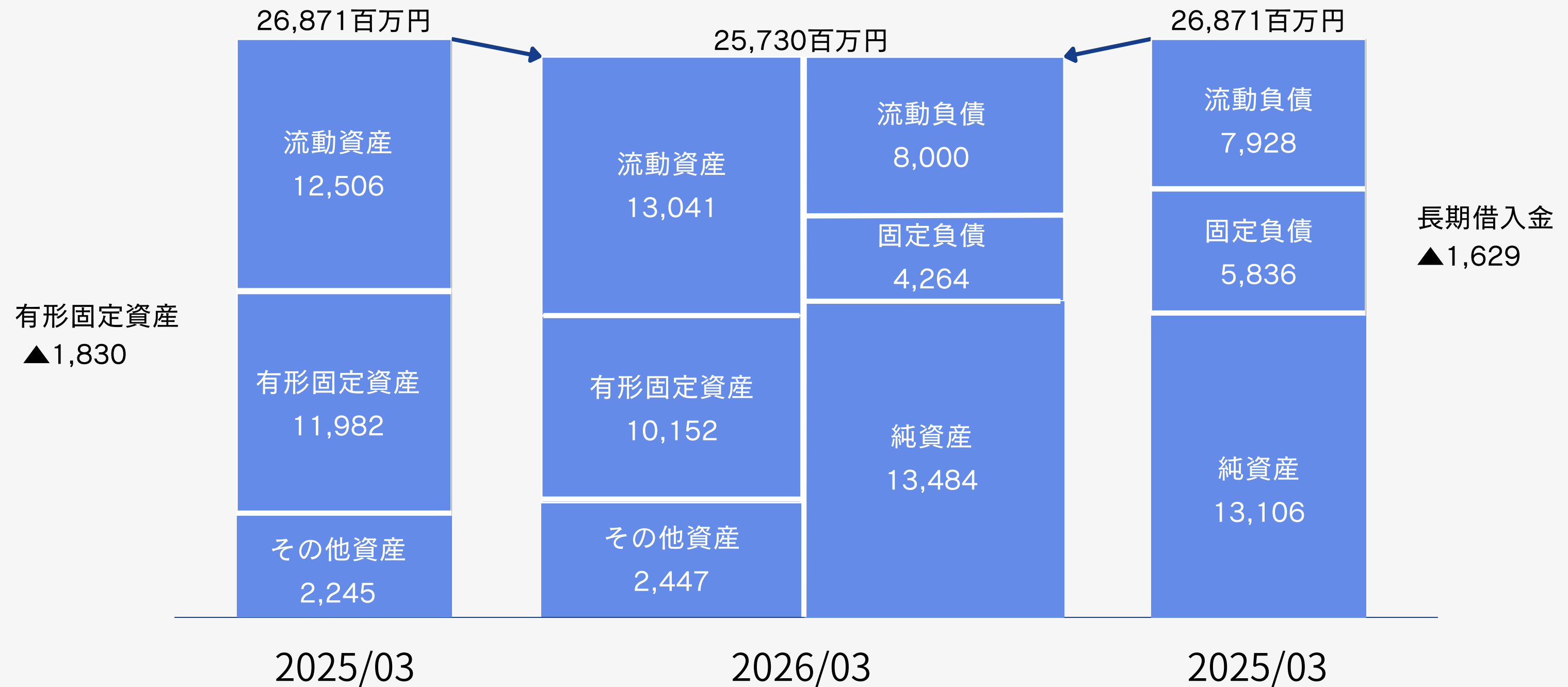
医薬品

- ▶ 既存の原薬・中間体が好調な一方で、CDMO事業は伸び悩み 医薬品全体としては減収 (FY2026～ / 新製品の立上げ・早期育成が至上命題)

貸借対照表



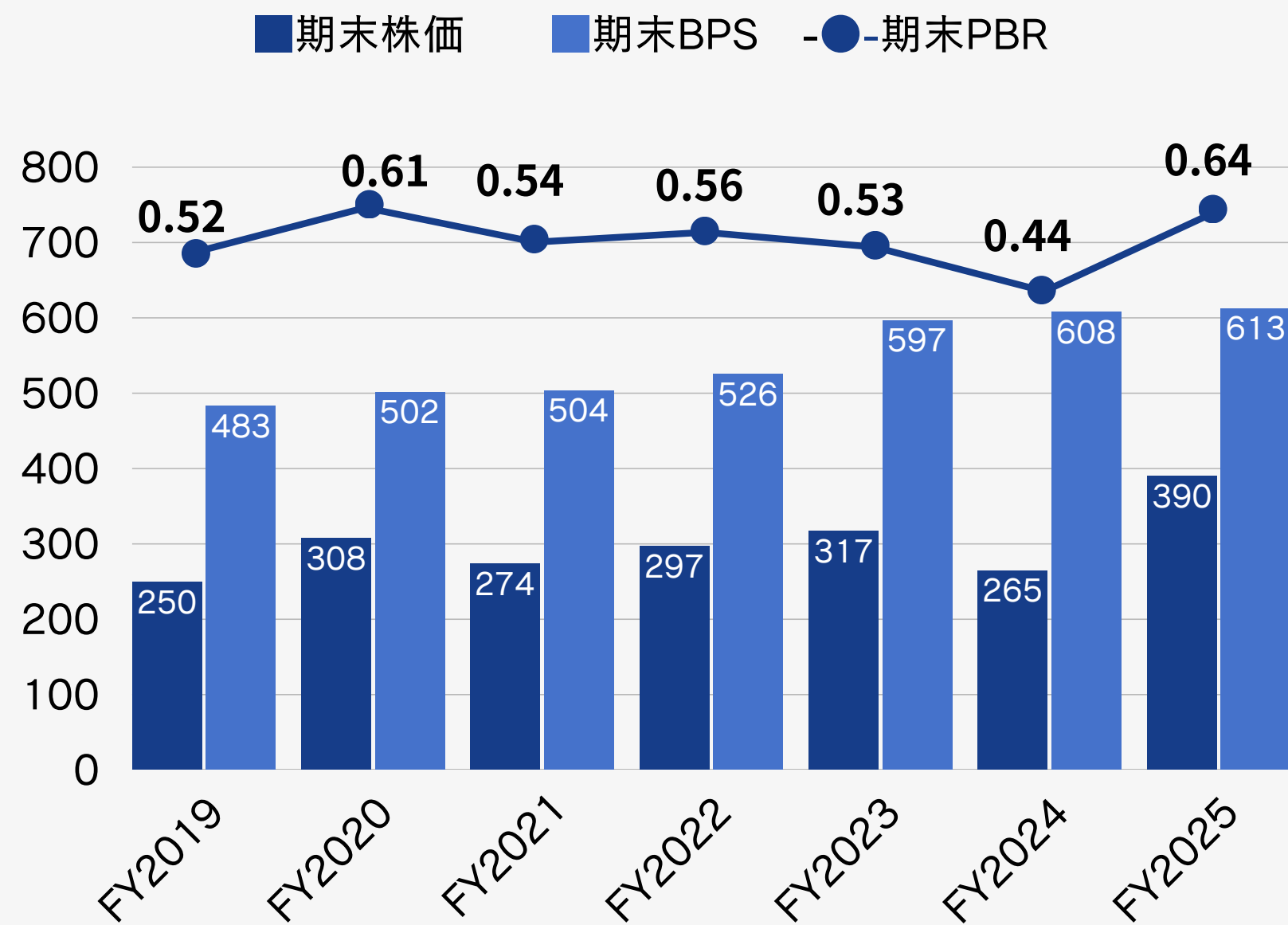
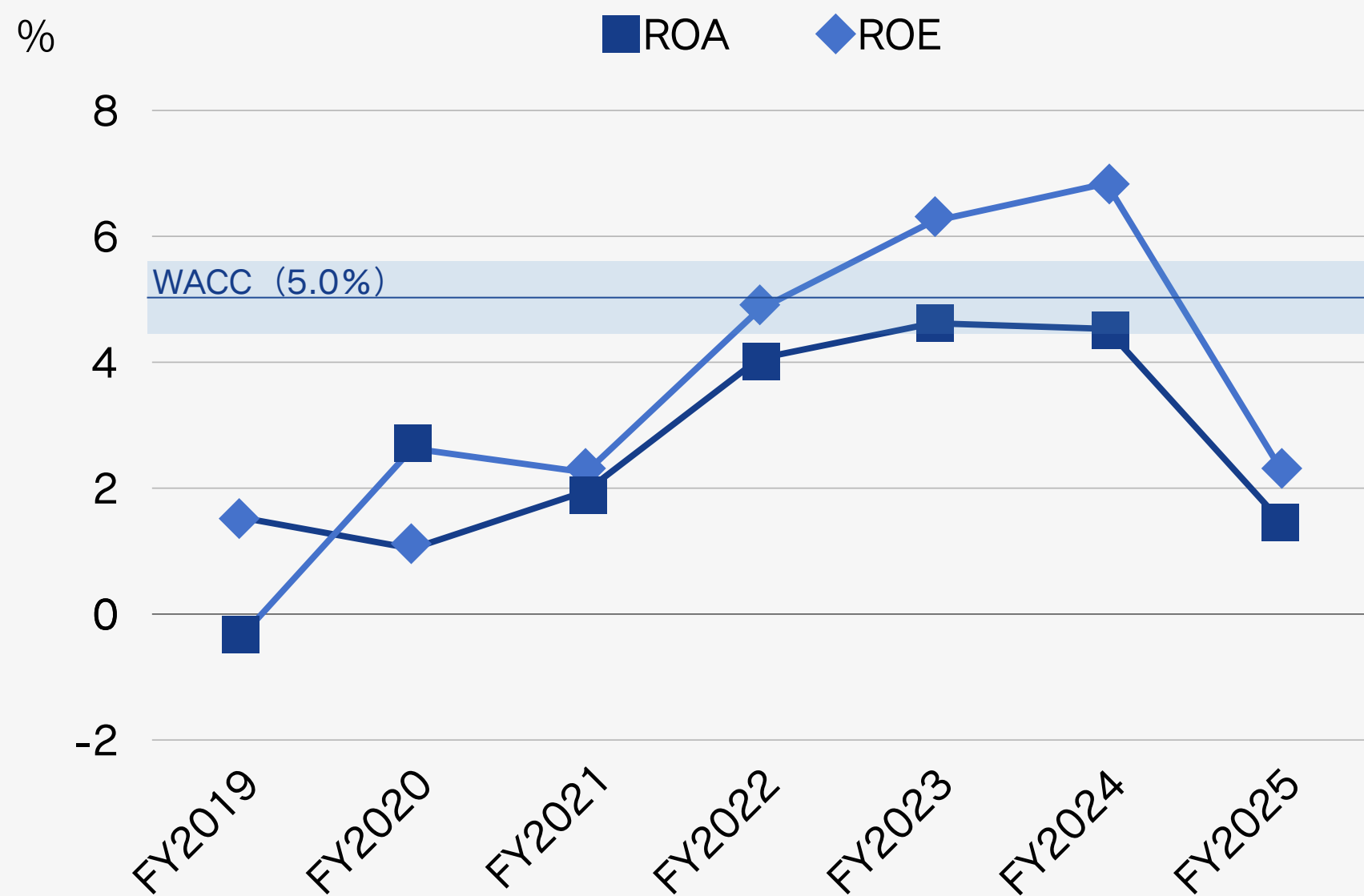
アミノ酸の設備投資に係る固定資産の圧縮記帳および長期借入金の返済により総資産を圧縮（圧縮金額：1,141百万）



財務指標分析



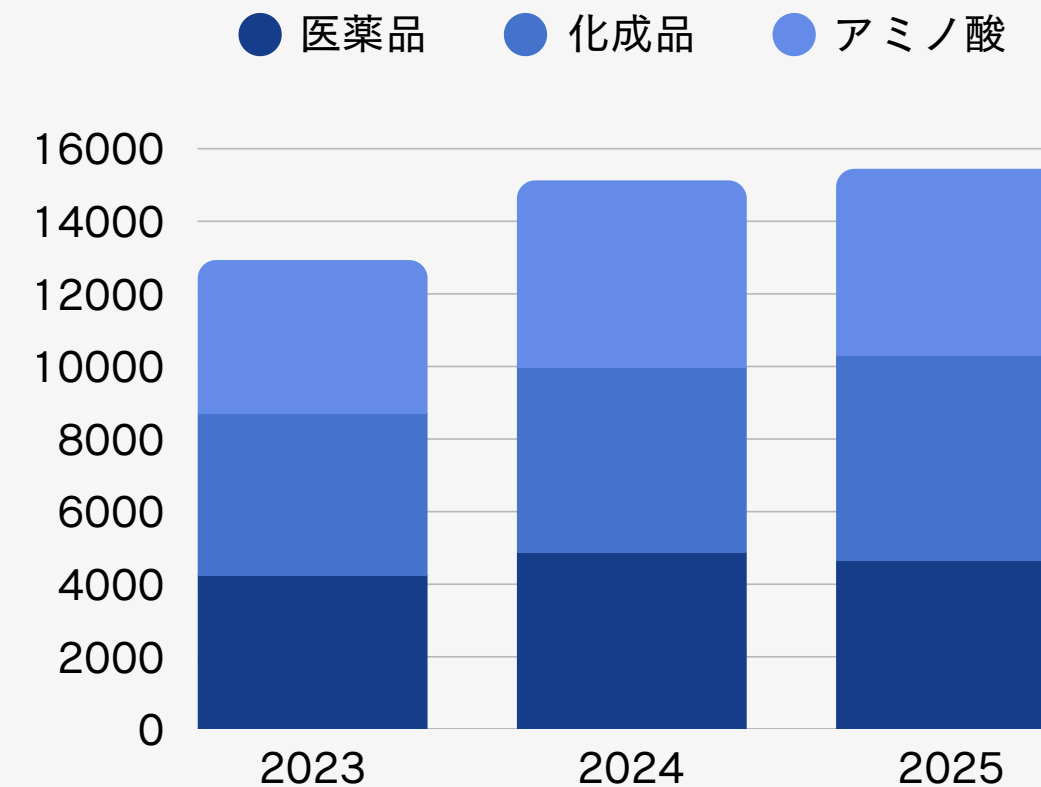
- ◇ 営業利益減少により、資産効率（ROA、ROE）が低下
- ◇ PBRのさらなる改善が課題



23中期経営計画の総括

- 売上高目標を達成したものの、EBITDAは営業利益減少により未達（最終年度）
- アミノ酸事業への投資を完遂し、今後の事業基盤を整備、需要増に対応
- 化成品の利益性改善に向けた施策を立案、次期中計で実行へ
- 化成品の選択と集中により得られたリソースを、次期中計での新製品立上げに有効活用
- 医薬品のCDMO事業は目標未達
- 医薬品のCDMO事業について新たな協業を開始、次期中計への準備
- クオリティカルチャー戦略により、米国食品医薬品局（FDA）の無通告査察をクリア

	FY2023	FY2024	FY2025
(百万円)	実績	実績	実績
売上高	12,932	15,128	15,448
営業利益	1,125	1,216	383
経常利益	1,130	1,139	303
当期純利益	776	896	313
ROA	4.6%	4.5%	1.5%
EBITDA	2,102	2,250	1,622
EBITDAマージン	16.3%	14.9%	10.5%

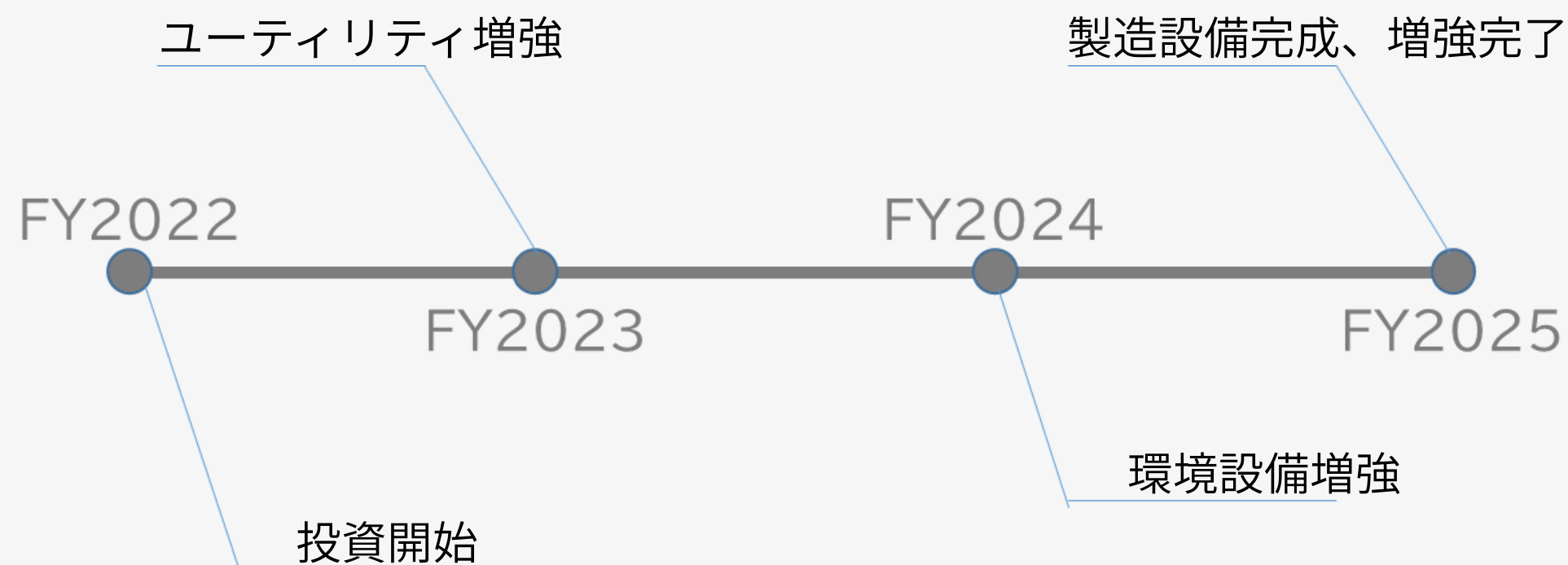


アミノ酸分野の設備投資



アミノ酸の生産能力拡大

47億円を投じて様々な設備をアップグレードし高品位グレードへの供給能力拡大に目途
投資期間：FY2022～FY2025



03

新中期経営計画(28中期経営計画)と成長戦略

28中期経営計画



百万円

	FY2026	FY2027	FY2028
	計画	計画	計画
売上高	16,000	16,500	17,500
アミノ酸	5,900	6,600	7,200
化成品	5,000	4,800	5,000
医薬品	5,100	5,100	5,300
配当	10円/株	—	—

売上高：伸長見込み

各製品の旺盛な需要を背景に、トップラインの拡大を継続

利益：精査中

- 中東情勢緊迫化による原燃料のコスト上昇リスクを注視
営業利益に与える影響として▲120百万円（現時点での試算）
- 前期下方修正の原因となった電材料向け製品の収益改善のために各施策を実行中
- 今期の予測については合理的算定が可能となり次第、公表予定

配当方針：安定配当を維持（FY2026においては、1株あたり10円を予定）

株主還元への姿勢は不変、継続的な還元を実施



28中期経営計画のロードマップ



基本方針

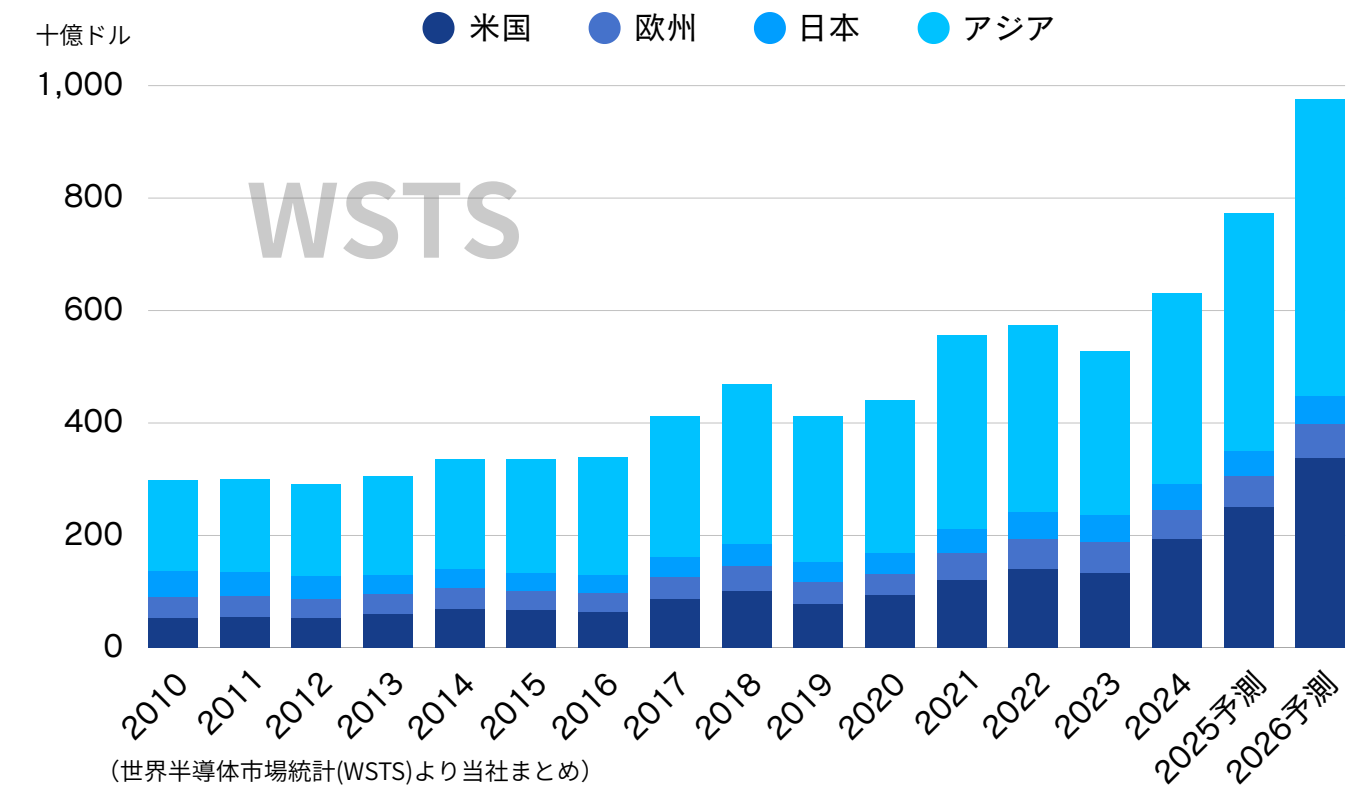
新たなステージへの挑戦（企業価値の向上による持続的な成長）

目標

1. アミノ酸：新規設備を有効活用し生産能力の拡大
供給能力アップによる市場シェアの拡大と顧客満足度の向上を同時に達成する
 - 生産・販売量の拡大：生産体制の強化
 - 高品位グレードの強化：市場が求める品質への挑戦

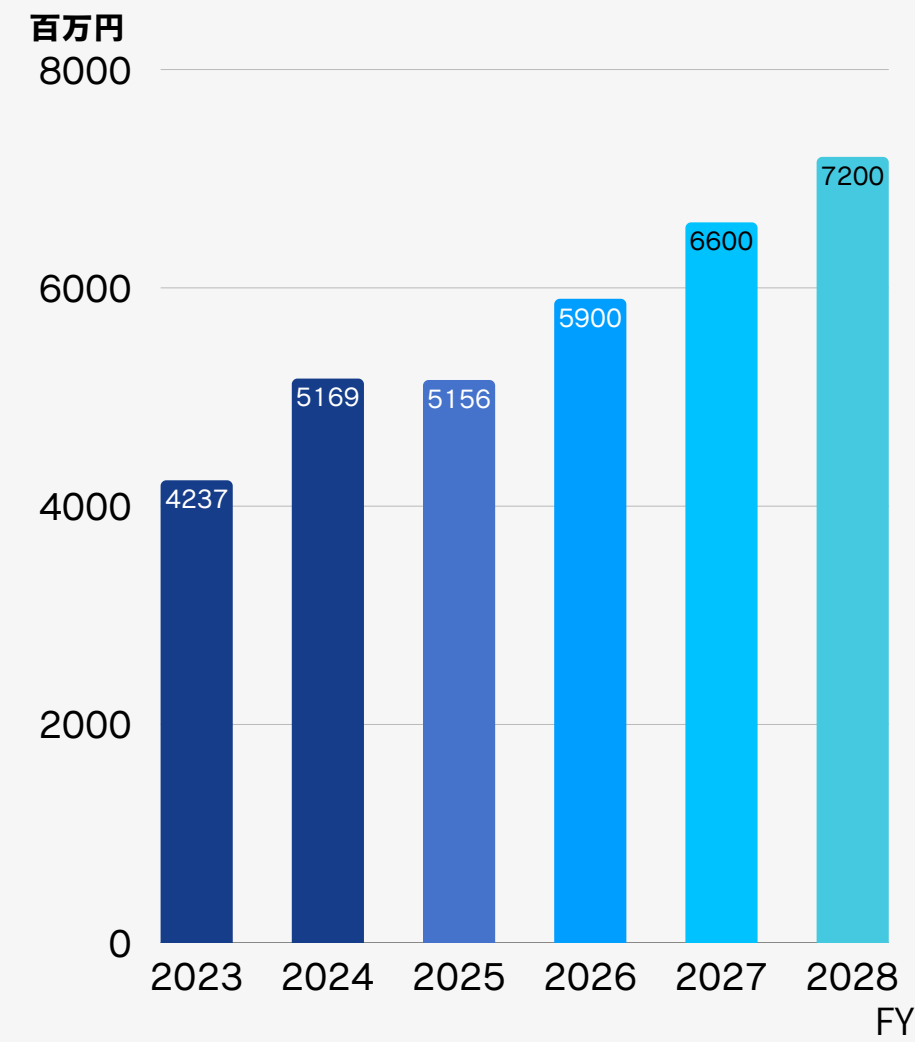
2. 化成品：収益性改善としてコスト競争力の強化
既存製品の製造原価を大幅に低減し、利益率の回復を図る
 - 電材向け製品の原価低減と利益回復
 - FY2026：ターゲット1（中東情勢にも耐えうる収益性の確保）
 - FY2027：ターゲット2（収益の安定化）
 - FY2028：ターゲット3（利益率向上）
 - 選択と集中により得られたリソースを有効活用し新製品開発

3. 医薬品：新規モダリティへの設備導入と他社との連携強化
CDMOビジネスの拡大に向け、設備投資と協業を推進する
 - 高薬理活性対応キロラボ設備：最大2L規模の実証設備FY2026
 - 高薬理活性対応：生産設備の建設FY2027、生産開始FY2028目標
 - 核酸関連化合物の立上げ：プロジェクトへの参画FY2026～2028

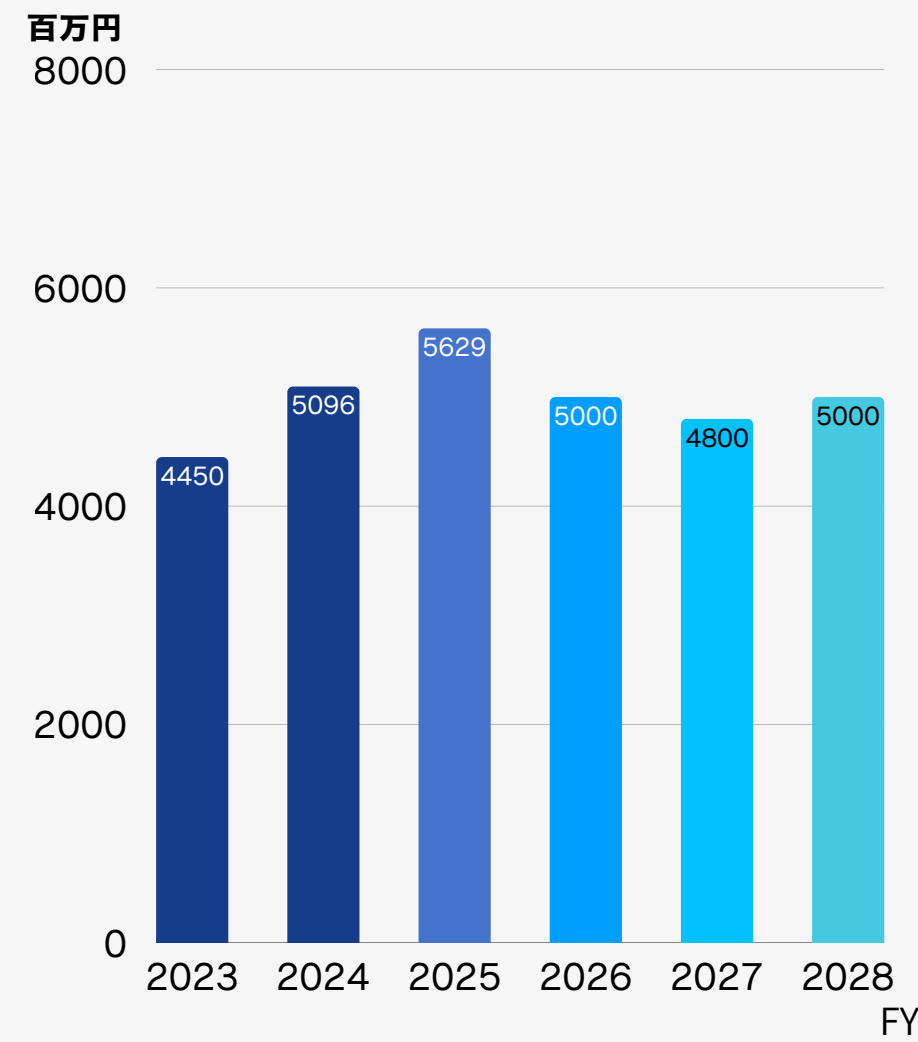


※イメージ図

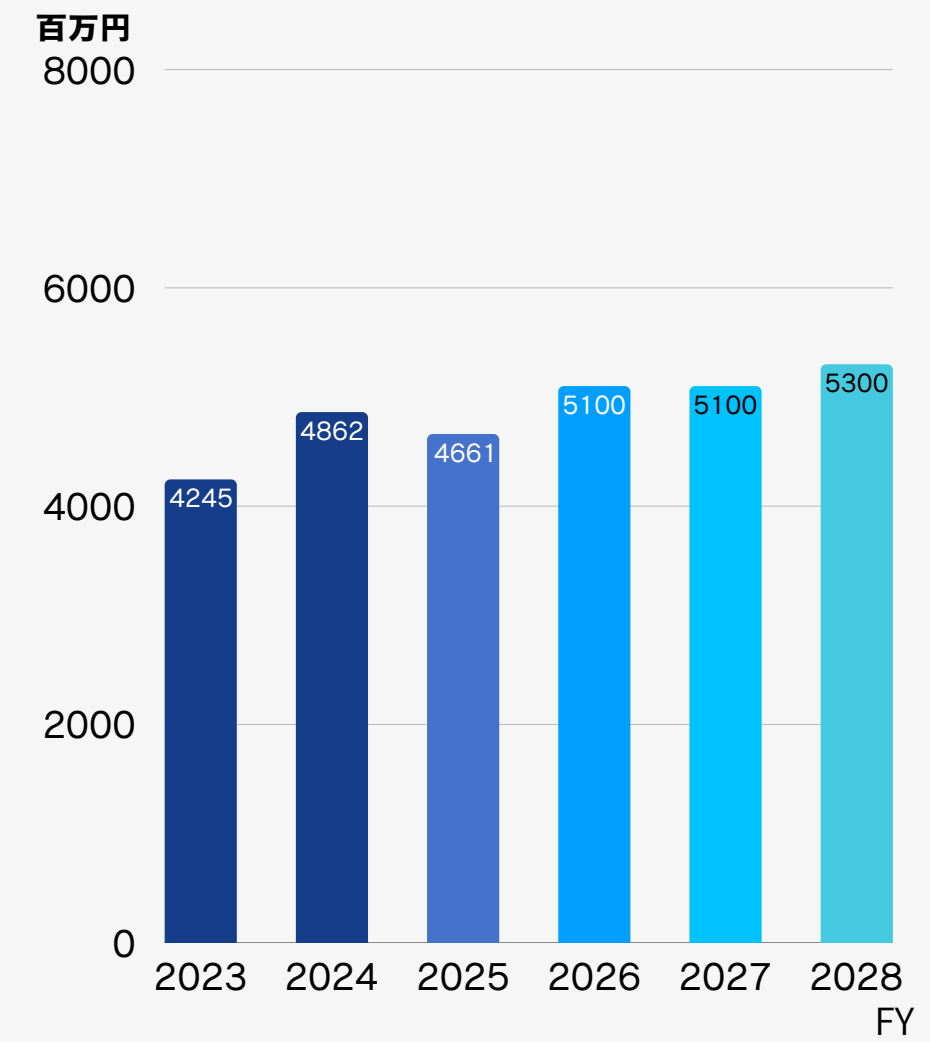
分野別売上高計画



アミノ酸



化粧品



医薬品

04

ESGへの取組みと企業価値向上

ESGへの取組み

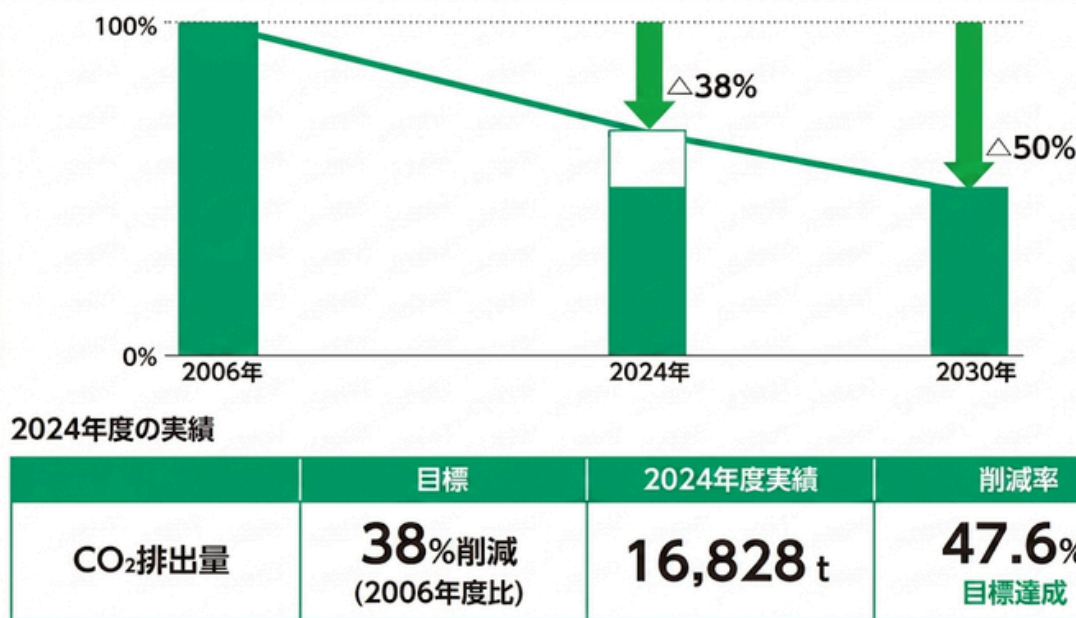


定着率98%
(FY2025)

女性比率20.5%
女性管理職比率16.7%
(FY2025)

有給取得率85%
(FY2025)

多様な人材の活躍と人事戦略
クオリティカルチャーの醸成



CO2削減への取組み

LNGへの燃料転換 (FY2027)
 コージェネレーションシステム導入 (FY2014)
 カーボンニュートラルLNGの一部導入 (FY2022)
 再生可能エネルギーへの切替 (本社完了、FY2023)



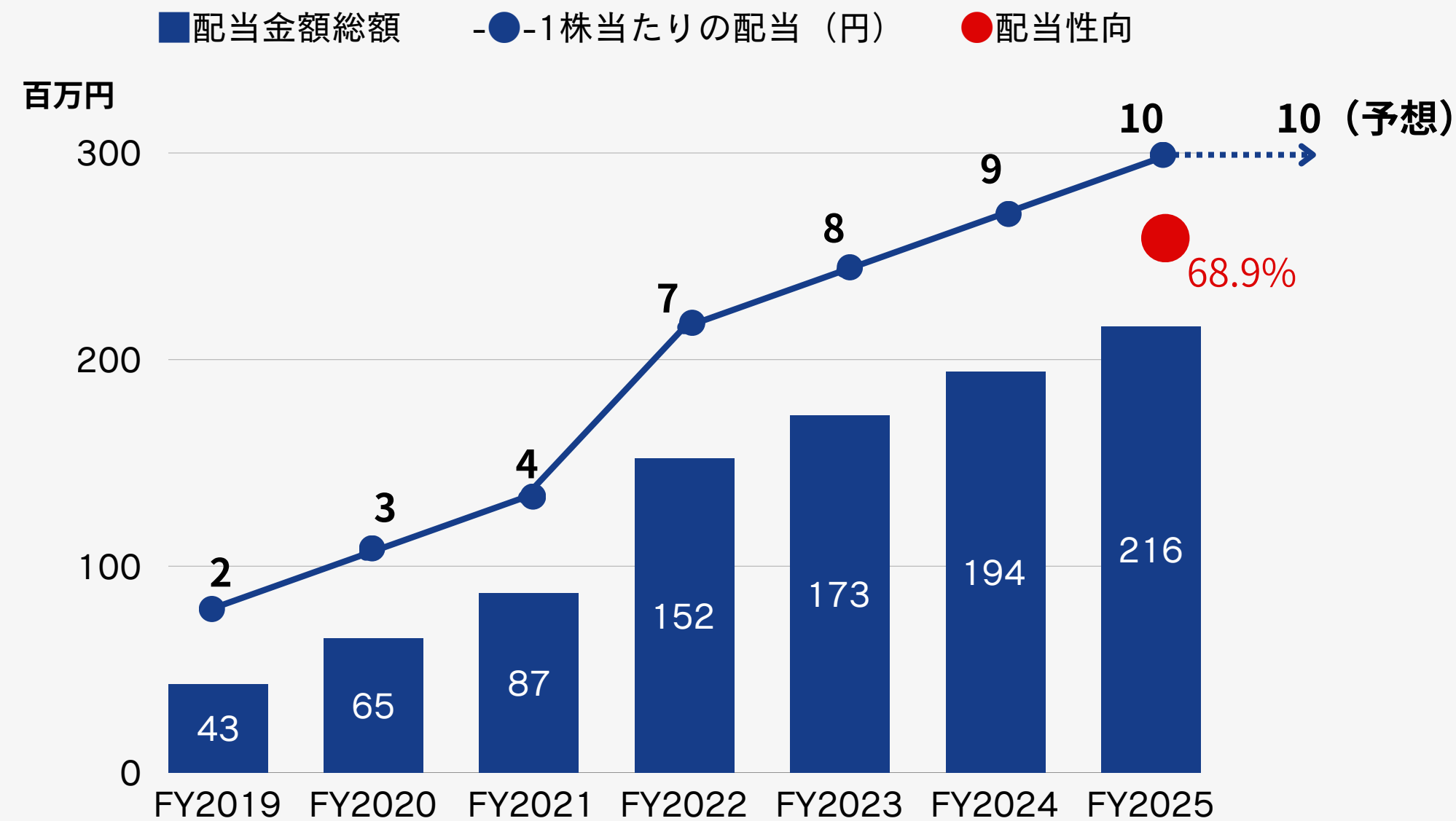
CSR REPORT 2025



企業価値向上（取組み、株主還元）



株主還元の推移



- 政策保有株式の売却
 - ・政策保有株式を売却額2.2億円以上
 - ⇒純資産の圧縮（FY2023、FY2024、FY2025）
- IRの強化
 - ・機関投資家向け決算説明会
 - ・個人投資家向けIRセミナー
- 株式報酬制度の導入
 - ・役員・従業員へのインセンティブ付与
 - ⇒中長期的な企業価値向上を図る
- 株主還元
 - ・累進配当を継続予定

有機合成薬品工業株式会社

わが社は 内外のあらゆる技術を駆使して 人の役に立ち 人によるこぼれるものを創る

本資料につきましては、株主・投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、株主・投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、株主・投資家の皆様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。